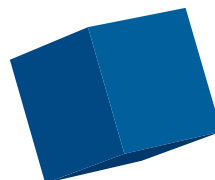
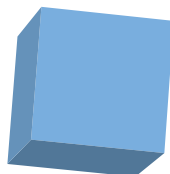
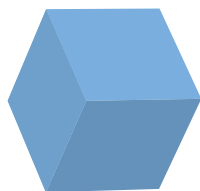
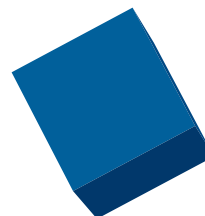
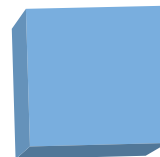


株主の皆様へ

株式会社 アサツー ディ・ケイ

第55期 中間報告書

平成21年1月1日 ▶ 平成21年6月30日



ごあいさつ



稲垣 正夫

取締役会長



長沼 孝一郎

取締役社長

株主の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、当社第55期事業年度第2四半期累計期間（平成21年1月1日から平成21年6月30日まで）を終了いたしましたので、事業の概況をご報告申し上げます。

当累計期間は、経済が低迷する中で当社グループの中心となる広告業界におきましても、広告費総量が大幅に減少する厳しい状況が続きました。このような状況にあって当社グループは、成長分野に積極的に取り組むとともに、グループ各社の持つ特徴を生かした連携によりクライアントに対する提案能力の充実を目指し、また、組織の有効性を高めるための改善と、仕入コストの低減や経費の厳正管理による経営の効率化に努めております。しかしながら、当累計期間におきましてはその効果も市場の収縮を補うには至らず、遺憾ながら売上、利益とも期初の目標に達しない結果となりました。

私ども役職員はこの結果を厳粛に受け止め、創業以来の「全員経営」の理念のもと、業績の回復に向け一致団結して各施策を推し進めることにより、ふたたび当社を成長軌道にのせるべく努力を続けてまいり所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年9月

ADKグループの 事業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、昨年来の世界的経済危機の影響を受け、輸出の伸び悩み、企業収益の低下、雇用状況の悪化、個人消費の低迷などが連鎖し、景気後退の悪循環により前年同期に比べ二桁のマイナス成長となったものと思われます。期間の後半では、企業の在庫調整が一巡したことなどのため、鉱工業生産や株式市場においてやや持ち直しの兆しが見られましたが、本格的な回復基調に入るのはまだ先のことと思われます。

国内広告業界におきましても、広告主のコミュニケーション投資が特にマス媒体において急激に圧縮され、コスト削減圧力が加速化するとともに、競争環境は一層厳しくなりました。このような経営環境のなか、当社グループは自らを「フューチャー・エージェンシー」と位置づけ、常にクライアントサイドに立ち360°のコミュニケーションを提案することで一層複雑化・高度化するクライアントニーズに応えることに注力してまいりましたが、前述の厳しい経済環境ならびに競争環境のなか、業績は振るいませんでした。

当社グループの売上高は1,774億8千1百万円（前年同期比11.5%減）、売上総利益は212億3千9百万円（前年同期比14.7%減）と、過去に例の無い規模の減少となりました。当社単体を中心に人件費の圧縮などを進めましたが、オフィス賃借料が上昇したことや貸倒引当金の繰入5億2千1百万円を計上したことなどのため、販売費及び一般管理費を十分には圧縮できず、4千5百万円の営業損失を計上しました（前年同期は23億3千1百万円の営業利益）。持分法適用会社については増収減益となり、その結果、持分法による投資利益は5千3百万円（前年同期比82.4%減）におわりました。経常利益は11億6千9百万円（前年同期比70.2%減）、特別利益1億8千8百万円、特別損失4億4千4百万円を計上しました。税金等調整前四半期純利益は9億1千4百万円（前年同期比76.8%減）、四半期純利益は3億8千9百万円（前年同期比83.5%減）でありました。

経営戦略の現状と見通し

わが国の多くの企業が収益性の著しい低下を余儀なくされ、あらゆる経費の削減を進めております。また、インターネットやモバイルの機能進化、広告メディア環境の多様化により、消費者の購買行動、メディア接触行動が変化し、クライアントが求めるコミュニケーションプログラムも急速に変化しております。当社グループの経営戦略には根本的な変更はありませんが、このようなかつてなく厳しく変動の激しい経営環境のもとで、当社グループは当面のあいだ、次の3点に注力してまいります。

1 ボトムラインの黒字確保のための

コスト・マネジメントと利益管理の徹底

収益性を維持するために、まず、原価・経費、特に、当社グループの中核である当社単体の販売費及び一般管理費の圧縮に努めます。

2 関連会社の利益貢献度の向上

当期間は残念ながら連結子会社の一部の不振が目立ちました。当社グループは連結子会社の黒字確保に努めるとともに、特徴ある関連会社の成長とグループ内シナジーを創出しグループ全体での利益向上に努めます。

3 中期的成長のための経営戦略の実施

当社グループの経営環境には厳しいものがありますが、そうであるからこそ、相対的に高い成長が見込まれる分野での競争力を高め、収益力と成長性の向上に注力しております。特に注力している分野は、次の通りです。

① 360°のコミュニケーションプログラムの推進

クライアントのニーズに応え、消費者により強いインパクトをもってリーチするために、伝統的マスメディアに加え、インタラクティブメディア、OOHメディア、インスタ・メディアなどの新旧メディアをクライアントのニーズに適合させるようにメディア・ニュートラル、ソリューション・ニュートラルの立場でシームレスに統合する、360°のコミュニケーションプログラムの推進を加速化してまいります。

② デジタルメディア分野の競争力強化

デジタルメディア分野での競争力強化のため、同分野の中核として、株式会社ADKインタラクティブを設立しました。これまでのデジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社との協働に加えて、他社との新たな業務・資本提携や、業務・資本提携先であるイギリスWPPグループとの連携強化を進め、当分野での競争力、オペレーション能力を拡充・効率化してまいります。

③ ブランディング、インスタ・メディア、 ダイレクト・マーケティング業務の推進

クライアントの商品・サービスが価格競争に陥ることを避けるためのブランド力育成に加え、クライアントの売上拡大に直結するインスタ・メディアの開発と、流通業者に依存しないメーカー独自のダイレクト・マーケティングに関連する広告業務は、当社グループの360°のコミュニケーションプログラムの強化の柱として当社ならびにグループ会社を通じて推進してまいります。

④ 海外市場への取組強化

既存の中国や東南アジアの拠点に加え、インド、ドバイ、韓国、フィリピンの現地企業への出資、新しい中国子会社の設立、ドバイやロシアにおける駐在員事務所設立などにより、海外市場への取り組みを加速化してまいります。

⑤ アニメコンテンツビジネスの推進

収益源の第2の柱であるアニメコンテンツは既有力コンテンツへ注力するとともに新しいコンテンツの開発を進め

てまいります。また、海外市場での二次利用収入の拡大のため、当社グループは当期間において、現地企業との合弁会社であったシンガポールのIMMG Pte. Ltd.社を100%子会社化いたしました。

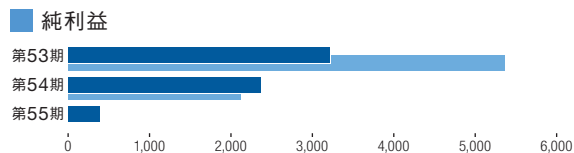
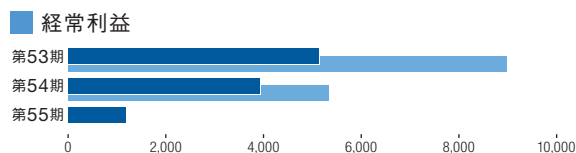
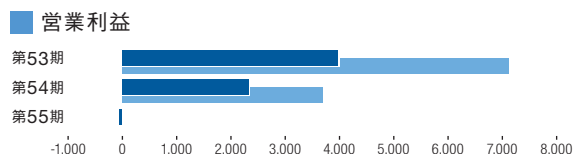
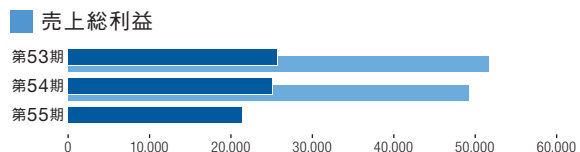
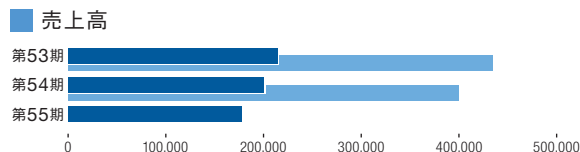
デジタルメディアの拡大に伴い、アニメコンテンツの配信ルートの多様化が進行しており、これにも対応してまいります。

中間基準日にかかる配当金について

当社は、配当額の決定にあたっては、年間配当総額の目安を連結当期純利益の35%とするとともに、1株当たり年間配当額の下限を20円に設定しております。中間基準日(6月30日)と期末基準日(12月31日)の割り振りとしては、中間基準日にかかる配当においては安定的に10円を原則とし、期末基準日にかかる配当においては10円または年間配当性向が約35%となる額のいずれか高い額としております。第55期事業年度につきましては、平成21年8月12日の取締役会において中間基準日にかかる配当を10円とし、9月14日を支払い開始日とすることを決議いたしました。期末基準日にかかる配当は10円、年間配当は1株につき20円となる見込みであります。

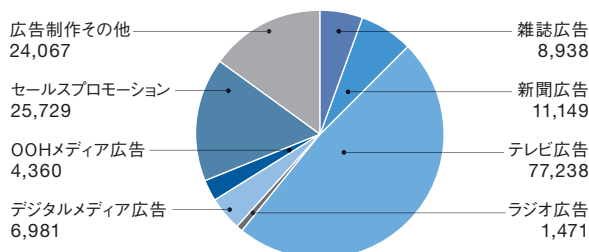
決算の概要

■ 第2四半期累計 ■ 通期
(単位: 百万円)



部門別売上高(単体)

(単位: 百万円)




四半期連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 (H.21. 6. 30現在)	前第2四半期 連結会計期間末 (H.20. 6. 30現在)	前連結会計年度末 (H.20. 12. 31現在)
〈資産の部〉			
流動資産	123,307	135,416	131,472
現金及び預金	23,858	24,226	14,881
受取手形及び売掛金	82,993	91,091	101,823
有価証券	5,280	5,948	3,419
たな卸資産	9,047	10,693	8,623
その他	2,762	4,014	3,447
貸倒引当金	△ 634	△ 556	△ 723
固定資産	61,750	79,345	60,310
有形固定資産	4,010	4,401	4,077
無形固定資産	1,915	1,197	1,966
投資その他の資産	55,824	73,746	54,267
投資有価証券	45,258	63,975	41,925
その他	12,091	10,733	13,310
貸倒引当金	△ 1,525	△ 961	△ 968
資産合計	185,057	214,762	191,782

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。


 資産合計は、おもに減収に伴う売上債権の減少により、前連結会計年度末に比べ67億2千5百万円減少し、1,850億5千7百万円でした。

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 (H.21. 6. 30現在)	前第2四半期 連結会計期間末 (H.20. 6. 30現在)	前連結会計年度末 (H.20. 12. 31現在)
〈負債の部〉			
流動負債	78,725	88,738	87,554
支払手形及び買掛金	70,434	77,826	78,241
短期借入金	250	466	551
1年以内返済予定長期借入金	156	28	151
未払法人税等	799	1,540	52
引当金	573	701	890
その他	6,511	8,175	7,665
固定負債	2,686	7,722	2,611
長期借入金	312	60	341
引当金	2,089	2,072	2,033
その他	285	5,590	236
負債合計	81,411	96,461	90,165
〈純資産の部〉			
株主資本	102,754	106,916	103,675
資本金	37,581	37,581	37,581
資本剰余金	20,024	20,024	20,024
利益剰余金	52,117	52,834	52,158
自己株式	△ 6,969	△ 3,523	△ 6,088
評価・換算差額等	△ 142	10,295	△ 3,087
その他有価証券評価差額金	140	9,585	△ 2,394
繰延ヘッジ損益	13	7	△ 21
為替換算調整勘定	△ 297	702	△ 671
少数株主持分	1,034	1,088	1,028
純資産合計	103,645	118,300	101,617
負債純資産合計	185,057	214,762	191,782

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

負債合計は、減収に伴う仕入債務の減少などにより、前連結会計年度末に比べ87億5千3百万円減少し、814億1千1百万円でした。株主還元政策の一環として、当第2四半期連結累計期間(H.21.1.1~H.21.6.30)に取締役会の決議により自己株式500,000株を8億7千7百万円で買受け、当第2四半期連結累計期間末の自己株式は69億6千9百万円(決済ベース)でした。少数株主持分は10億3千4百万円であり、それを含む純資産合計額は1,036億4千5百万円で、純資産比率は56.0%でした。

四半期連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 (H.21. 1. 1~H.21. 6. 30)	前第2四半期 連結累計期間 (H.20. 1. 1~H.20. 6. 30)	前連結会計年度 (H.20. 1. 1~H.20. 12. 31)
売上高	177,481	200,590	399,452
売上原価	156,241	175,695	350,308
売上総利益	21,239	24,894	49,143
販売費及び一般管理費	21,285	22,563	45,444
営業利益(△:営業損失)	△ 45	2,331	3,699
営業外収益	1,368	1,816	2,981
受取利息及び配当金	705	1,157	1,759
その他	663	658	1,222
営業外費用	153	227	1,345
経常利益	1,169	3,920	5,335
特別利益	188	1,563	1,608
投資有価証券売却益	—	1,408	1,427
その他	188	155	180
特別損失	444	1,537	3,168
税金等調整前四半期(当期)純利益	914	3,946	3,774
法人税等	505	1,560	1,641
少数株主利益	19	23	7
四半期(当期)純利益	389	2,362	2,125

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 (H.21. 1. 1~H.21. 6. 30)	前第2四半期 連結累計期間 (H.20. 1. 1~H.20. 6. 30)	前連結会計年度 (H.20. 1. 1~H.20. 12. 31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,187	6,562	△ 3,181
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 805	3,281	7,085
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,709	△ 5,413	△ 7,853
現金及び現金同等物に係る換算差額	403	△ 220	△ 1,289
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	9,076	4,208	△ 5,238
現金及び現金同等物の期首残高	12,807	17,994	17,994
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	—	50	50
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	21,883	22,254	12,807

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期貸借対照表(単体)の要旨

(単位:百万円)

	当第2四半期末 (H.21. 6. 30現在)	前第2四半期末 (H.20. 6. 30現在)	前事業年度末 (H.20. 12. 31現在)
〈資産の部〉			
流動資産	98,759	108,071	105,986
固定資産	58,084	75,857	56,562
有形固定資産	1,596	1,722	1,648
無形固定資産	1,794	1,091	1,837
投資その他の資産	54,693	73,043	53,077
資産合計	156,843	183,928	162,549
〈負債の部〉			
流動負債	68,199	76,182	75,582
固定負債	1,001	6,388	963
負債合計	69,201	82,571	76,546
〈純資産の部〉			
株主資本	87,829	92,095	88,789
資本金	37,581	37,581	37,581
資本剰余金	20,024	20,024	20,024
利益剰余金	37,192	38,012	37,272
自己株式	△ 6,969	△ 3,523	△ 6,088
評価・換算差額等	△ 186	9,261	△ 2,786
その他有価証券評価差額金	△ 200	9,253	△ 2,764
繰延ヘッジ損益	13	7	△ 21
純資産合計	87,642	101,356	86,002
負債純資産合計	156,843	183,928	162,549

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期損益計算書(単体)の要旨

(単位:百万円)

	当第2四半期 累計期間 (H.21. 1. 1~H.21. 6. 30)	前第2四半期 累計期間 (H.20. 1. 1~H.20. 6. 30)	前事業年度 (H.20. 1. 1~H.20. 12. 31)
売上高	159,937	179,493	358,595
売上原価	143,170	159,625	319,955
売上総利益	16,766	19,867	38,640
販売費及び一般管理費	16,582	17,796	36,176
営業利益	184	2,071	2,463
営業外収益	1,220	1,416	2,002
営業外費用	91	217	481
経常利益	1,313	3,270	3,984
特別利益	10	1,468	1,480
特別損失	431	1,176	2,155
税引前四半期(当期)純利益	891	3,561	3,309
法人税等	540	1,540	1,587
四半期(当期)純利益	351	2,021	1,721

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概況

平成21年6月30日現在

会社の概要

商号……………株式会社アサツ ディ・ケイ
 英文表記……………ASATSU-DK INC.
 略称……………ADK
 本店所在地……………〒104-8172
 東京都中央区築地一丁目13番1号
 03-3547-2111 (代表案内)
 設立……………昭和31年3月19日
 資本金……………375億8,136万円
 従業員数……………2,089名(単体)
 当社ウェブサイト……………http://www.adk.jp

取締役および監査役

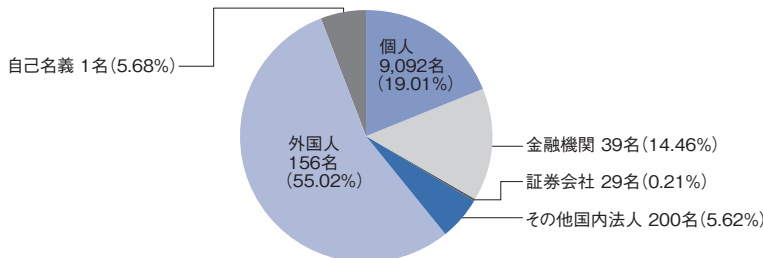
取締役会長(代表取締役)	稲垣 正夫
取締役社長(代表取締役)	長沼 孝一郎
取締役	広瀬 英昭
取締役	菱山 武雄
取締役	森 賢二
取締役	永井 秀之
取締役	清水 與二
取締役	成松 和彦
取締役	北村 次郎
取締役	岡安 治
取締役	井上 俊行
取締役	植野 伸一
取締役	植村 好貴
取締役	サー・マーチン・ソレル
監査役(常勤)	境 芳郎
監査役(常勤)	志形 雄三
監査役(常勤)	市川 亮
監査役	春木 英成

(注) 1. 平成21年3月27日開催の第54回定時株主総会終結の時をもって、取締役並井宏明氏および本多昭次氏は、任期満了により、また、監査役阿部勝美氏は辞任により退任いたしました。 2. 監査役志形雄三氏、市川亮氏および春木英成氏は社外監査役であります。

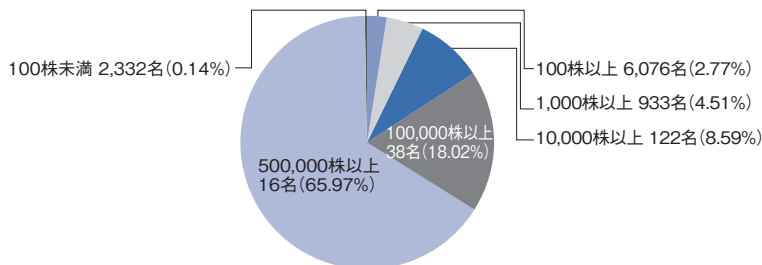
株式の状況

■発行可能株式総数……………206,000,000株
 ■発行済株式の総数……………45,155,400株
 ■株主総数……………9,517名 (注)発行済株式の総数には自己株式(2,568,900株)を含んでおります。

保有者別分布(株式数比率)



保有株式数別分布(株式数比率)



大株主の状況

株主名	保有株式数(千株)	出資比率(%)
ダブリュービービー・インターナショナル・ホールディング・ビーヴィ	10,331	24.26
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)サブアカウントアメリカンクライアント	2,434	5.72
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーリユーエスタックスエグゼンブテッドベンションファンズ	2,385	5.60
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	1,908	4.48
ザシルチェスター・インターナショナルインベスターズ・インターナショナルバリュー・エクイティートラスト	1,672	3.93
稲垣 正夫	1,639	3.85
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドンスペシャルアカウントナンバーワン	1,425	3.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,036	2.43
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505225	830	1.95
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・三菱商事株式会社口)	765	1.80

(注) 1. 出資比率は、発行済株式の総数(45,155,400株)から自己株式数(2,568,900株)を減じた株式数(42,586,500株)を基準に算出し、小数第3位を四捨五入して表示しております。 2. 当社は、自己株式を2,568,900株(発行済株式総数の5.68%)保有しておりますが、上記の大株主より除外しております。 3. 記載株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。

営業所の状況

営業所名	所在地
本社	東京都中央区
関西支社	大阪市北区
中部支社	名古屋市中区
九州支社	福岡市博多区
北海道支社	札幌市中央区
東北支社	仙台市青葉区
(東北支社)北東北支局	盛岡市
新潟支社	新潟市中央区

営業所名	所在地
北陸支社	金沢市
岡山・四国支社 岡山オフィス	岡山市北区
岡山・四国支社 高松オフィス	高松市
(岡山・四国支社)愛媛支局	松山市
中国支社	広島市中区
フィリピン事務所	マニラ
ニューデリー事務所	ニューデリー
北京事務所	北京

(注)平成21年1月1日付をもって、岡山支社と四国支社を統合し岡山・四国支社といたしました。

連結決算対象会社の状況

当社グループの事業に係わる位置づけは次のとおりであります。

広告業 → 当社のほか、子会社48社、関連会社19社およびその他の関係会社1社が行っております。

その他の事業 → 子会社5社および関連会社1社が行っております。

そのうち連結対象会社は次に示したとおりです。その内訳は連結子会社が23社(無印)であり、持分法適用会社は、関連会社3社(*印)です。

		主な事業内容		会社名	
		国内	広告代理および広告制作		
				株式会社ADKインターナショナル	
				株式会社ADKダイアログ	
				株式会社ADKアーツ	
国内	広告制作			株式会社ボーイズ	
		広告代理(インターネット広告媒体)		*デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム株式会社	
		アニメ制作		株式会社エイケン	
		主な事業内容		所在地	会社名
広告業	海外	広告代理および広告制作	米国	ニューヨーク	エイディケイアメリカ(ADK America Inc.)
			オランダ	アムステルダム	アサツーヨーロッパホールディング(Asatsu Europe Holding BV) [持株会社] アサツーヨーロッパ(Asatsu Europe BV)
			ドイツ	フランクフルト	アサツードイツ(Asatsu(Deutschland) GmbH)
			中国	広州	*広東旭広告有限公司(Guangdong Guangxu (ASATSU) Advertising Co., Ltd.)
				香港	アサツォー ディー・ケイホンコン(ASATSU-DK HONG KONG Ltd.)
				上海	ディケイアドバタイジング(DK ADVERTISING(HK) Ltd.) 旭通世紀(上海)広告有限公司(ASATSU Century(Shanghai) Advertising Co.,Ltd.)
				上海	上海旭通広告有限公司(Shanghai Asatsu Advertising Co., Ltd.)
			台湾	台北	聯旭國際股份有限公司(UNITED-ASATSU INTERNATIONAL Ltd.) 太一廣告股份有限公司(DIK-OCEAN Advertising Co., Ltd.)
			シンガポール		アサツォー ディー・ケイシンガポール(ASATSU-DK SINGAPORE Pte. Ltd.)
			タイ	バンコク	エイディケイタイホールディング(ADK Thai Holding Ltd.) [持株会社] ダイイチキカクタイランド(DAI-ICHI KIKAKU (THAILAND) Co.,Ltd.) アズディック(ASDIK Ltd.) アサツォータイランド(ASATSU (Thailand) Co.,Ltd.)
その他の事業	主な事業内容		会社名		
	雑誌・書籍の出版・販売		株式会社日本文芸社 株式会社ネオ書房		
	情報処理サービス		*日本情報産業株式会社		

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月中
1単元の株式数	100株
剰余金配当の基準日	毎年6月30日、12月31日 この他、必要があるときはあらかじめ公告して定めます。
株主総会の基準日	定時株主総会については12月31日といたします。 この他、必要があるときはあらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区大手町二丁目6番2号 東京証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番2号(日本ビル) 東京証券代行株式会社 本店 お取次は中央三井信託銀行株式会社本店および全国各支店にて行っております。 ウェブサイト http://www.chuomitsui.co.jp
郵便物送付先連絡先	〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター 電話 ☎ 0120-49-7009 ウェブサイト http://www.tosyodai.co.jp 電話を利用した「自動音声応答による諸届出用紙のご請求」は次の電話番号までお願いいたします。 ☎ 0120-16-5805
公告方法	電子公告 ウェブサイト http://www.adk.jp ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株式に関する手続きのご案内	①ご住所等、各種株主様情報の変更に関する届け出 ②配当金の受取方法のご指定 ③単元未満株式の買取・買増請求 上記項目のお手続きにつきましては、ご保有株式数を一般口座(証券会社に開設されている取引口座)にてご保有の方は、取引口座のある証券会社へ、また、特別口座にてご保有の方は、上記株主名簿管理人東京証券代行株式会社へお問い合わせください。

<http://www.adk.jp>